

あいさつ

町田市教育委員会教育長 坂本 修一

町田市立町田第二小学校は、2022年度から2023年度の2年間、町田市特別支援教育推進モデル校として、研究主題を『「見る力」を高め、学ぶ喜びを実感できる子どもの育成～ビジョントレーニングを活用した指導の工夫～』と設定し、熱心に研究を進めてこられました。この度、その成果をまとめ、発表されますことを心よりお慶び申し上げます。

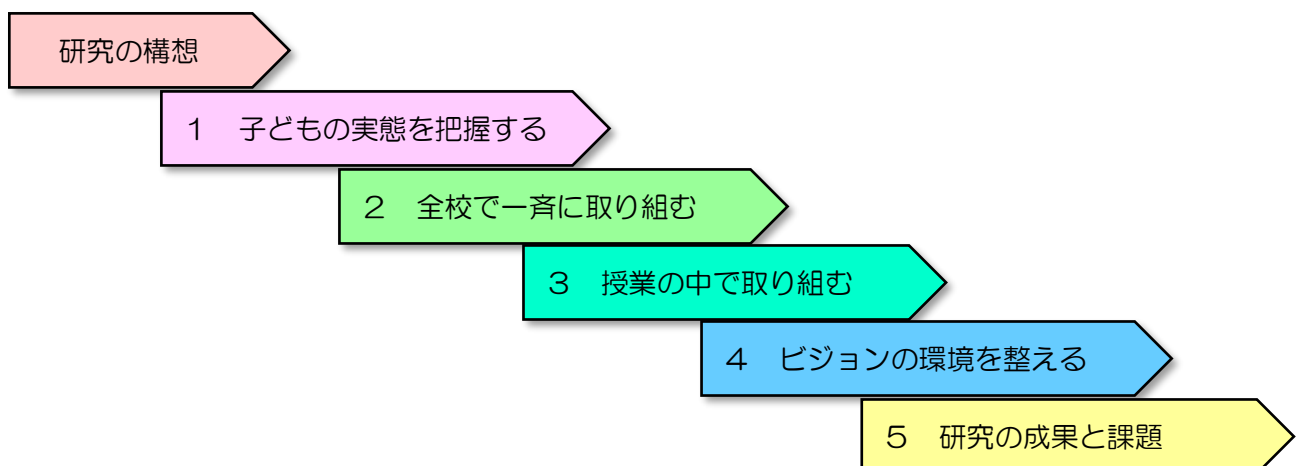
本校の研究では、眼でものの性質や状態を捉える力を高め、見たものを正しく認識したり、自分の体をイメージ通りに動かす機能を向上させたりするためのトレーニングである、「ビジョントレーニング」に注目し、週2回以上、ビジョントレーニングを行う時間を設定し、各教科に「見る力を高める手だて」を取り入れた指導方法の工夫を重ねてこられました。

本校の研究の成果が、町田市の全ての子どもたちの学習上の困り感の解消や自己肯定感の向上につながり、学習意欲の向上に資することを期待しております。結びにあたり、これまで熱意をもって本研究を進めてこられました、永井 晋 校長先生をはじめ教職員の皆様のご努力に敬意を表するとともに、本校の研究を温かく支えてくださいました保護者や地域の皆様にも厚くお礼を申し上げ、挨拶いたします。

はじめに

町田市立町田第二小学校 校長 永井 晋

日頃より本校の教育研究活動に深いご理解と厚いご支援を賜り心より感謝申し上げます。今年度は2年間にわたる町田市特別支援教育推進モデル校として研究主題『「見る力」を高め、学ぶ喜びを実感できる子どもの育成～ビジョントレーニングを活用した指導の工夫～』の最終年度となります。子どもが「学ぶ喜びを実感する」ための方法はいろいろあります。本校では特別支援学級や特別支援教室に通う子どもたちだけでなく、全校児童に特別支援教育の視点を踏まえた授業を意識しつつ、子どもたちの実態から学んだり見付けたり考えだしたりしたビジョントレーニングを授業に取り込み実践を繰り返しました。しかし、それにより子どもたちが学ぶ喜びをすぐに実感したり、学力がすぐに向上したりするものではありません。それでも、取組を続けることにより、子どもたちは自分の苦手を徐々に克服して、できることを増やしてきました。本校教職員は、今まで仕方ないと思っていた読み飛ばしなどは見る力に関係していたと分かり、それを高めることで学ぶことが楽しく感じられることを実感しました。どうぞその成果をご覧いただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。



研究の構想

つまずいている子どもたちを救いたい・・・

子どもたちは毎日、複数の授業を受けています。その授業に主体的に参加し、「分かった」「できた」をたくさん積み重ねることで、たくましく生きていく力を身に付けてほしいと私たち教師は願っています。

しかし、授業を進める中で、次のようなつまずきを起こし、学習意欲が下がっている子どもがいます。

読む場面で

- ・読み間違いをする
- ・読み飛ばしをする
- ・同じところを読む
- ・滑らかに読めない



体を使う場面で

- ・はさみで線に沿ってうまく切れない
- ・紐結びやボタンどめがうまくできない
- ・ボールをキャッチできない
- ・手足の動かし方がぎこちない



書く場面で

- ・板写に時間がかかる
- ・文字がマスからはみ出る
- ・文字の形が整わない
- ・漢字が覚えられない



集中力 注意力

- ・じっとしていることが苦手
- ・集中が切れやすい
- ・つまずきやぶつかりが多い
- ・整理整頓が苦手



このような子どもたちが10年前に比べると明らかに増えていると感じていました。これらのつまずいている子どもたちへの指導や支援について模索をしている中、町田市教育センターが勧める「ビジョントレーニング」に出逢いました。

視覚（ビジョン）について学ぶ

研究1年目の4月から7月までは、全教員でビジョンについての理論・概要を、体験しながら学びました。まずは、ビジョンについての概要を説明します。

【講師 丸 節子先生の講義より抜粋】

●なぜ、今、ビジョントレーニングが必要なのでしょうか

人はもっている様々な感覚を組み合わせ使いながら情報を得ており、その中でも、視覚（ビジョン）の働きは80%以上にも及びます。この視覚がうまく機能しないと、学習や生活の中で様々なつまずきを起こしてしまうのです。残念ながら、現在は、視覚が育ちにくい遊び方や生活環境になっています。

学校や家で、いつでも短い時間でできるトレーニングを行い、学習や生活の土台をつくっていきましょう。



●視力と視覚（ビジョン）との違い

視力とは、「静止した像がどれだけはっきり見えるか」のことです。ほとんどの学校では、ランドルト環を使って、視力の検査をしています。視力は視覚の一部に過ぎません。



視覚(ビジョン)とは、情報を入力してから、体で反応する出力の段階までを指します。

入力(インプット)の段階

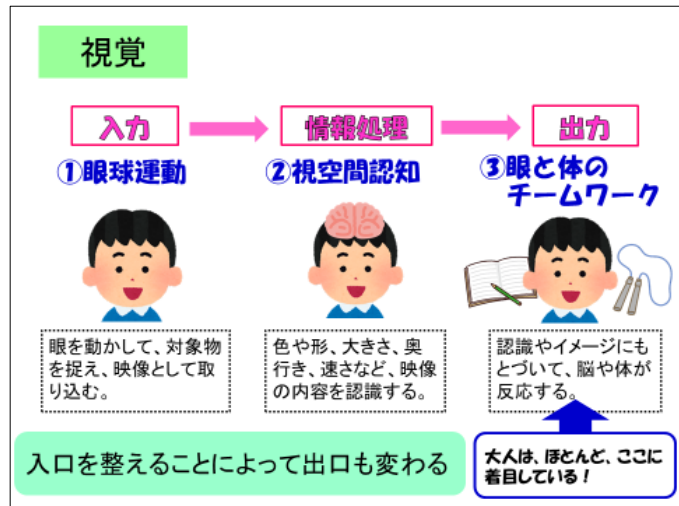
まず、眼で対象を捉えて、映像として脳に送る段階です。

情報処理の段階

捉えた物の色や形、大きさ、奥行き、距離、スピードなどを、脳ですばやく認知・認識する段階です。

出力(アウトプット)の段階

脳から指令が出され、反応したり体を動かしたりする段階です。



ビジョンが機能しているとは、この一連の動きがうまくいっていることを言います。

●ビジョンの入口から整えましょう

読む、書く、手先を動かす、運動するなどは、上図の中の「出力」、つまり脳で処理した情報に対して表れている反応です。私たち大人は、子どものこの部分に着目し、直接的な支援をしていることが多いのです。

△漢字が覚えられない子どもに、「覚えるまで何回も練習しよう」と指示する。

△ボールキャッチがうまくできない子どもに、「もっとボールをよく見て! 頑張っ!」と励ます。

何度も練習すれば、漢字が書けるのでしょうか……。もしかしたら、漢字全体の形や、点や線の位置が捉えられないのかもしれませんが。子どもは、本当にボールを見ていないのでしょうか…。もしかしたら、その子なりに一生懸命に見ているかもしれません。そこで、

そもそもきちんと見えているか(①眼球運動)、正しく対象物を認識できているか(②視空間認知)などを見直そうというのが、ビジョンへのアプローチです。①と②を整えることで、③の出力が適切に伸びていきます。

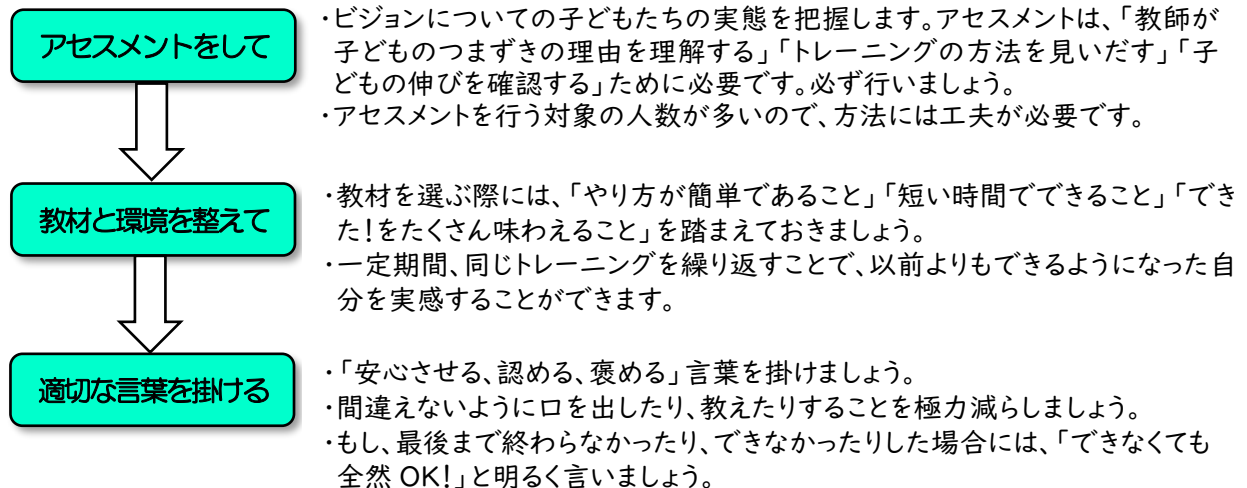
子どもの実態に合わせ、①～③のトレーニングをバランスよく行うことを通して、学習でのつまずきを減らしたり、得意なことをさらに伸ばしたりすることができます。

●ビジョントレーニングの効果上げるために

☆1日5分、1週間に4日以上行くと効果が出やすいと言われています。

☆子どもにとって楽しいこと! これは何より大切です。

学校で、ビジョントレーニングに取り組む際には、次の3つを行きましょう。



トレーニングは最初に教師が体験する

子どもたちにビジョントレーニングを取り組ませる前には、「必ず教師自身が体験すること」を講師から教わりました。実際にやってみると、「集中できる」「自然に笑顔になる」ことなどが分かると同時に、実施の際の工夫点や配慮点を見いだすことができました。また、体験を重ねると、「このトレーニングは〇〇の学習活動と関連している」ということに気が付くようになりました。



最終的に目指すこと

子どもたちがビジョントレーニングに自ら取り組み、嫌がらずに続けていくためには、「楽しい!」と感じることと、「できるようになった」を実感することが大切だと考えました。

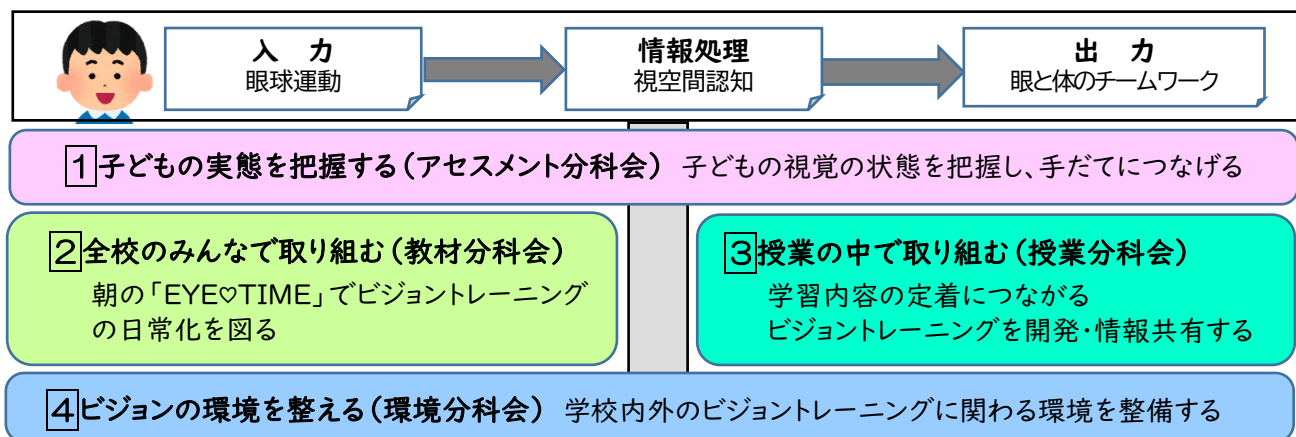
しかし、最終的な目的は、ビジョントレーニングをうまく進めることではありません。ビジョントレーニングを通して、「自分ができる」をたくさん経験させ、学ぶ意欲や学習内容の定着につなげていくことです。

そこで、本研究では、朝の時間に全校一斉に取り組むトレーニングに併せて、授業の中で取り組むトレーニングの活用や開発にチャレンジしました。子どもたちが多くの時間を費やす授業において、達成感や成就感をもててこそ、自己肯定感が育ち、目の前の課題に立ち向かう大人になっていくのだと考えました。

研究の内容と進め方

研究のスタートとして、まず、子どもの実態把握である「アセスメント」の内容と方法を検討し、1年目の11月から全校一斉に実施しました。同時に、全校一斉に朝の時間を使ったトレーニングをスタートしました。

また、教科等の学習内容に合わせたトレーニングを開発し、情報共有をとおして、授業の中でもできるだけ、実践するようにしました。そして、校舎内の環境の面からのアプローチや保護者への発信も行い、トレーニングが子どもにとって身近なものになるように工夫しました。



目指す子ども

見る力を高め、学ぶ喜びを実感できる子ども

